

第2回 藤沢駅南口交通広場調整会議 議事要旨

■日 時：2018年（平成30年）3月29日（木）10時30分から12時20分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 7階7-1会議室
（藤沢市朝日町1番地の1）

■出席者（敬称略 50音順）

会 長：岡村敏之

委 員：飯森均、上田敬生、川崎隆之、北村和利、幸嶋規之、佐藤大作、
高橋優介、西村靖生、前田静男、三上雅之

事務局：藤沢市都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1 開 会

2 議 題

（1）藤沢駅南口交通広場調整会議の設置について

（2）これまでの意見等を集約した駅前広場再整備の考え方について

3 その他

■議事概要：

○事務局より配布資料の説明として、藤沢駅南口交通広場調整会議の位置づけについて再確認を行った後、昨年実施したアンケート調査の結果や、あり方検討会議及び第1回交通調整会議から出てきた意見について報告を行った。また、これまでの意見を踏まえた再整備の考え方について説明し、意見交換を行った。

○意見としては、「駅前広場内必要な機能について」、「交通処理について」、「駅前広場への出入り動線の考え方について」、「乗り換えの利便性について」、「自転車の考え方について」、「配置について」、「資料の公開について」が出た。概要は次のとおりである。

<駅前広場内に必要な機能について>

- ▶バリアフリーや歩行者優先といった考え方も重要と思う一方、バス・タクシーのスペースが狭くなるという難しさがある。バランスが重要。
- ▶バリアフリー対策として、一般車をあえて駅の一番近い場所に配置する事例もあるので、一般車の配置の考え方について議論すべき。

<交通処理について>

- ▶駅前広場外周の民地、あるいは道路と一体となって、荷捌きスペースの確保について考えていく必要がある。
- ▶ロータリー内の荷捌きが交通の妨げになるので、対策が必要。
- ▶路肩の駐車場も併せて検討すべき。

<駅前広場への出入り動線の考え方について>

- ▶駅前広場の出入り動線の考え方については、今後議論を深める必要がある。出入り動線を限定してしまうのは、影響が大きいので慎重に考えるべき。
- ▶駅前広場への出入り動線が変わると、タクシー料金にも影響があるので、慎重に考えてもらいたい。
- ▶多方向から様々な車両が流入する状況について今後の方針を出すべき。

<乗り換えの利便性について>

- ▶駅改良による乗り換えの利便性の向上も大事だが、行政と鉄道事業者の連携によるサイン改良についても考えた方がよい。
- ▶駅周辺のサインは、駅だけでなく、湘南エリア全体で考えるべき。

<自転車の考え方について>

- ▶駅前広場外周部での駐輪場の確保や広場への自転車の進入方法、広場に行くまでの自転車道の整備といった考え方をしっかり計画すべきである。
- ▶シェアサイクルの導入の可能性について検討した方がよい。
- ▶藤沢駅の南北間の移動の利便性を考慮しつつ、駅前広場及び地下道における自転車の位置づけを検討する必要がある。

<配置について>

- ▶滞留スペースや藤沢駅の特徴のある空間の具体的な場所については、今後議論を深める必要がある。
- ▶駅前広場を考えていくのに、駅舎や駅周辺の建物とどのように連携していくかについて考慮する必要がある。

<資料の公開について>

- ▶会議の出席者は検討の途中段階であることは理解しているが、資料が独り歩きし、不正確な理解や誤解を与え、市民の間に混乱を生じさせるおそれがないか心配である。

- ▶しかしながら公開資料から削除してしまうと、何を議論していたのかがわからないという状況になり、それは避けたい。滞留スペースについては、懸念という形ではないものの、具体的な場所については今後議論を深める必要があるということ及び駅前広場への出入り動線を限定することの影響の大きさ、また懸念があるという意見が事業者から出たということを議事として残すことが大事であり、資料そのものについては基本的に公開することとしたい。
- ▶駅前広場への出入り動線については、個別の協議等でも検討すべき重要な検討事項である。